

令和2年度 「スラブ・ユーラシア地域（旧ソ連・東欧）を中心とした総合的研究」に関わる
「プロジェクト型」の共同研究 研究報告書

令和3年4月30日現在

研究課題名	スラブ・ユーラシア地域の鉄道の変革				
申請者 (代表者)	氏名		所属機関・職		
	松澤 祐介		西武文理大学・教授		
研究構成員		氏名	所属機関・職	専門分野	役割分担
	1	松澤 祐介	西武文理大学・教授	中東欧経済	研究統括
	2	井出 晃憲	稚内北星学園大学・准教授	文化人類学・観光学	研究分担者
	3	日臺 健雄	和光大学・准教授	ロシア経済	研究分担者
	4	田畑 伸一郎	北海道大学スラブ・ユーラシア研究センター・教授	ロシア経済・比較経済体制論	アドバイザー

研究成果の概要

本研究では、スラブ・ユーラシア地域における近年の「鉄道」をめぐる変革を経済学（松澤）、政治学（日臺）、観光学（井出）の分野から学際的にアプローチし、同地域の体制転換・市場経済化以降の動向・成果を整理、検討、評価し、さらにはわが国の鉄道経営への示唆を導いた。

1. 中東欧の旅客鉄道の変革とその評価

ポーランド、チェコ、スロバキアを事例に、EU 指令に基づく上下分離、オープンアクセスの現状と成果、課題を検討した。チェコでは都市間輸送での活発な新規参入による料金低減、本数・輸送量の増加、車両の質の向上が、また地方路線運行での PSO (Public Service Obligation) によるコンセッションの進展で、地方路線の運航維持、輸送コストの低減等の効率化が実現している。ポーランドでは旧国鉄の改革で長距離輸送会社と地域輸送会社の分割が行われたが、後者の経営悪化は地方政府のイニシアチブでの各地域の新会社設立に至った。スロバキアではオープンアクセスの進展は限定的で、新規参入に対しても政府の一部社会層への「無償化」や競争入札の撤回等、典型的な鉄道への政治介入が見られた。国境間輸送では、EU の TEN-T 計画に加え、冷戦期に閉鎖された国境間路線が構造基金、結束基金等も利用して再生、高規格化が図られ地方政府の国境間のモビリティ促進へのイニシアチブもあり、路線の復活等が図られている。加えて、定期的な旅客輸送停止後も国有のインフラ会社により線路・施設が維持され、観光シーズン時の活用や定期輸送再開も図られている。もっとも、地方路線は補助金での運営が前提であり、その運営効率化と PSO 契約の成果は我が国の地方路線維持の参考になりうるとの結論を得た。

研究成果の概要（続き）

2. 「一帯一路」に直面するロシアの鉄道：歴史と現状

ロシアと中国のユーラシア地域への地政学影響について、ロシアの貨物鉄道輸送を通じての「中欧班列」から「一帯一路」を事例として分析した。中国は2011年から中国→カザフスタン→ロシア→ベラルーシ→欧州15カ国の物流ルート「中欧班列」、2013年からは「一帯一路」を、鉄道＋高規格道路によって形成をもくろむ一方、ロシアはユーラシア経済連合を通じ旧ソ連圏への影響力維持を企図した。ロシアではシベリア鉄道の極東部分の需要低下が課題となったが、中国もロシアの路線提供がなければこれらの成立自体が危ういことから、ロシアの「貨物輸送」の観点からはロシア側が「一帯一路」のプロジェクトを取捨選択でき、中国とロシアの「どちらが主導権を握っているのかわからない」状況があることを示した。他方「ユーラシア連合」での各加盟国と中国との2国間協力の状況を分析、同連合と「シルクロード経済ベルト」との結合の困難を明らかにした。

3. サハリンにおける観光資源としての鉄道の変遷

1990年代以降の島内鉄道を活用したツーリズムの変遷と課題、可能性を明らかにした。鉄道のツーリズムへの積極的活用は、ペレストロイカ末期にサハリン鉄道局が経営危機に陥り、1990年の外国人のサハリン訪問自由化を契機に、外国人観光客の誘致を主眼にした「ユーラシア・サハリン」社を鉄道局が設立したことが嚆矢となったこと、サハリン南部は日本統治時代の路線が使われ、日本から同年80名が訪れたことを皮切りにその後諸外国も含め毎年数千人規模にまで拡大し、一大ヘリテージツーリズムとなったこと、他方人気だったループ線（通称「悪魔の橋」）の廃止等で2000年代に下火となったこと、他方、2004年に鉄道博物館が設置、2020年までに「日本コーナー」を含め展示が拡充して新たな観光資源となりつつあることが示された。他方、既存路線は日本時代の狭軌からロシア標準軌への改軌が完了、南北サハリンを結ぶ観光列車が試行されるなど新たな展開も見られている。もっとも、稚内＝コルサコフ航路が運休となったことで「稚泊航路」からサハリンの鉄道資源を活用するボーダーツーリズムの展開への課題も示された。

主な発表論文等（雑誌論文、学会発表、図書等）※謝辞の有無について明記願います。

松澤祐介「EUの東方拡大と運輸・輸送サービス(3):中東欧諸国の国境地域間旅客鉄道輸送の展開」『西武文理大学サービス経営学部研究紀要』第38号、2021年7月刊行予定（謝辞あり）

井出晃憲「近年のサハリンにおける鉄道と観光の変容－観光資源としての鉄道を考える－」寺島文庫塾アジア・ユーラシア研究会、2021年5月19日

日臺健雄「一帯一路」に直面するロシア鉄道の歴史と現状『和光経済』第54巻第2号、2021年11月刊行予定（謝辞あり）

当該研究活動を基に応募中の研究プロジェクト（科研費等）

なし

※枠を調整することは構いませんが、ページは追加しないでください。